

パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2013年8月1日

119号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護



ヤシの実を探る準備をする3青年（右2番目から山口さん、増田さん、下條君）

＜三青年、ヤシの木を切り、実を収穫する＞

パンタナールのヤシ（カラウンダウー通称パルマ）の実は、年に何回か実ります。

枝にぶどうの房のようになって1~2cmの実が沢山なります。一本のヤシの木にかなりの量の収穫があり、下に網を敷いておいて、長い棒の先にノコギリを付けて木の上の方の葉陰に成了った実の枝を切り落とすという原始的な方法で収穫しています。豚やパクーが喜んで食べます。

パンタナールは水辺にヤシの木は無尽蔵にあります、収穫の仕方を研究すれば、能率が上がり、人件費を相当削減できますので、養殖の採算性が高まるでしょう。

毎年派遣されている青年ボランティア隊のメンバーにも経験してもらいますが、日本から訪れた若者達にとっては、ヤシの木の切り倒しや、実の収穫は、開拓初期の労働を経験するいいチャンスになるようです。

レダのこの時期は冬の季節なので、暑さも厳しくなく、圧倒的に蚊の数が少ないので、快適に労働作業に取り組んで、気持ちの良い汗を流していました。



＜ボカシ肥料を作る＞



写真左：下條君（左）と山口さん（右）
写真上：三週間以上熟成させて使います。

ふすまに土着菌を混ぜて、ぼかし肥料を作りました。

（ボカシ肥料は、数種類の有機質肥料（4種類以上 米ヌカ・油カス・骨粉・魚カスなど）に微生物資材を入れ、総有機質肥料の40%の水で攪拌、40日ほど掛けて麹のように醗酵させたアミノ酸肥料のことをいいます。） 肥料としてだけでなく、アミノ酸の働きでおいしい野菜が育ちます。

＜ベニータさん、ありがとう！＞



◎レダで11年間、労働者達の為に食事を作ってくれたお母さんのような先住民の婦人が、高血圧で療養の為、6月を持ってオリンポ村に帰られました。

かつてのレダ牧場で父親が働いていたため、この婦人はレダの第一ゲストハウスの近くで生まれました。

この地は故郷なのです。

夫も、三人の息子、娘も、妹もレダで働いている一家で、中でもベニータさんは、一生懸命よく働き、皆に尽くしてくれ、模範を示してくれていました。

本当にありがとう！ベニータさん。

☆写真左：歓送会の食事後、皆で記念撮影（前列右から二番目がベニータさん）

＜命誕生の季節＞

家畜の牛や豚に子供がどんどん生きて来ています。
遂に豚も1000頭になりました。

青木さんが世話をしている犬の花子も出産し、母親そっくりの色柄の赤ちゃんもいます。ベニータさん万歳！レダの勝利万歳！と喜びを表現します。



“Benita”と下條君がケーキに名前を書きました。

青年奉仕隊支援最後のお願い！！

政府も対応が出来ない僻地、トロパンパ村への支援12000ドル(120万強)、ミンガグアス市の緑化活動のための苗木の準備等(200万円)が必要になります。7月中旬まで必要な経費の半分が準備出来ました。残り一ヶ月となりました。関係者に働きかけてください、ボランティアの目的が十分果たせるようにご協力ををお願い致します。 **支援金の送り先:**
郵便口座 10180-77680471
未使用的ハガキ、切手等 南北米事務局宛て



トロパンパ村の子供達が地球の裏側、日本から来る青年達と一緒に村の道沿いに木を植える活動の準備をしています、苗木を動物から守るために柵作りの木を奥地から運んでいるところ。



第13回に参加する青年が支援のお願いのポスターを作り、関係者に働きかけてくれている。

南米、パラグアイ、パンタナール地域へのエコツアーならびに植林活動を通じて、生態系の維持と強化を促進し、その地域をモデルとし、世界に環境保護の大切さを訴えています。

会費は月五〇〇円、毎月、パンタナール通信を送ります。

また、各種のセミナー、エコツアー等の案内をいたします。

地球家族として
自然を守りましょう
南北米福地開発協会

南北米福地開発協会 事務局
〒223-10001
神奈川県川崎市高津区
溝口三十一一十五
岩崎ビル四F
○四四一八二九一二八二二
八二九一二八二〇
会費納入 郵便口座
一〇一八〇一七七六八〇四七一
柴沼邦彦
Eメール office@asd-nsa.jp
ホームページ <http://www.asd-nsa.jp>